

◆ウェットバキューム エアスクープ8の管理方法◆

①汚水タンクから汚水を抜き、タンク内を洗う

汚水は必ず、タンクからすべて抜いて下さい。衛生上の問題はもちろん、放置しておくともーターヘッド（バキュームモーター）に湿気の影響がおよび、悪影響を与えます。その後汚水タンク内を洗って下さい。（なるべくタンク内の水分を拭き取ってください。）

※タンク内部に残った水分は蒸発しながら上面にかぶせてあるモーター内部に少しずつですが入っていきます。少しでもモーターの故障頻度を低くするため行うことが最適です。また、使用頻度少ない場合も拭き取ってください。※

②スクイジーをはずし、ゴムの部分を洗う

スクイジーのゴムはバキューム力に大きな影響があります。ゴミなどを取り除き、流水でよく洗って下さい。スクイジーも長時間、付けっぱなしにしていると取れなくなります。

※吸引するためにモーターと双壁をなして大切なのは吸引口のゴムです。ワックス・洗剤・剥離剤などがついたまますると劣化が早くなります。毎回、きちんとゴムは洗い、スクイジーは本体から取り外すことも忘れずに行ってください。※

③剥離後にはヘッドの先端部を水に浸ける

剥離作業に使用した後はヘッドの筒状の部分に汚水のカスが付着するケースがありますワックスの空缶に水をはり、5～10分間程度浸けて下さい。その際ヘッド上部には絶対水がかからないように注意して下さい。その後、2～3分程度モーターを空回して下さい。（ヘッドをつけたまま放置しないこと。）

※ヘッド下部の白い部分の内部に穴があいた円柱の（部品名称シールド）部品に穴があいていますが、この穴がワックスなどで塞がれると故障の頻度が上がります。この部分も長くつけておけばいいというものではありません。湿気をモーターに吸わせないように、使用後は、空回して水分は拭き取るのがベストです。この円柱の上にモーターがありますので、流水でメンテナンスする際には、上面のモーター内部に水がかからないように注意をしてください。ヘッドをつける際は剥離剤をお湯でといたものにつけ、それを流すのがベストです。※

④モーターヘッドの裏側の黒いガスケット（縁のパッキンゴム）をよく拭く

ここはヘッドとタンクが密着している部分です。洗剤が付いたまま放置するとゴムが硬くなり、密着が悪くなります。吸引力に影響しますので、作業後、きれいに拭いて下さい。

⑤ヘッドとタンクの間は隙間をあけて保管

保管時は使用時のようにヘッドとタンクを密着した状態は避けて下さい。できるだけ通気させて湿気の影響がモーターにまわるのを防いで下さい。別々に保管しても結構です。

※特に夏場は車内・室内でもかなり温度となり、湿気が蒸発してモーターを傷める原因になります。また、使用頻度が少ない場合もできるだけ湿気がモーターにまわらないように同様の保管方法をとってください。※

■使用する際は、消泡剤を使用してください。

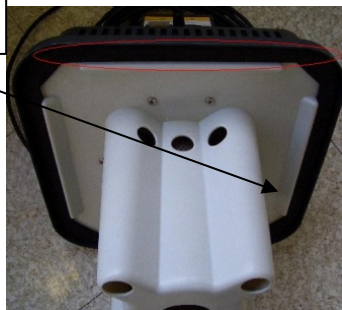
③の参考画像



周りのゴム
を付着物を
きちんと取る

④の参考画像

外周の黒いゴム



この網の目が
つまらないように



⑤参考画像

ヘッドをずらす



◆エアスクーパ8の主な特長◆

モデル	アドバンス(旧型)	オールウェイ(新型) (ペンギン製)	ニルフィスク(現行型)
写真			
ハンドル部の 特長	すべてのハンドルは折りたたみません。	このモデルのハンドル折りたたみですが、後期モデルはハンドルは折りたたみません。	すべてのハンドルは折りたたみません。
発売時期	1989年9月～	2005年3月～	2009年9月～
汚水の排水口 (大きさ) 注意:キャップシールはゴム栓根元を回すと大きさが変わる。	キャップシール 15～17mm 	キャップシール 20～22mm 	汚水排水ホース 
		汚水排水ホースはつきません。	キャップシールつきません。
前輪キャスター色 取り付け部(台座部)のサイズ ※ネジピッチが異なる	黒色 (50×30mm)	茶色 (70×40mm) (注意:汚れて黒くみえることがあります。)	薄い緑 (70×40mm) (注意:汚れて黒くみえることがあります。)
画像			
前輪キャスター互換性	他と互換性なし	キャスターの互換性あり	
スイッチ位置 (この部分がヘッド部の見分けるのに一番わかりやすいです。) ※旧型ヘッドは新型及び現行型のタンクにあわないことがあります。タンクがわずかに大きい。	前面スイッチ 電源コードと反対側 	背面スイッチ 電源コードとスイッチは同じ側 	背面シーソーボタン 電源コードと同じ側 ボタン部に透明なカバー付き 